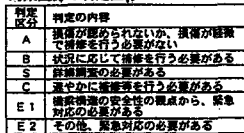


補修必要」約4割

点検結果
分析

予防対策で寿命100年に

判定は1%だった。総部材数に占める損傷の割合を示す「発生率」は、床版が最も高く、鋼鉄製橋梁では27%、コンクリート橋では15%だった。部位別では、主桁の損傷が最も多く見つけた。鋼鉄製橋梁の主桁の損傷の割合は1%だった。同省は「橋梁定期点検要綱」を作成して05年度から点検を始めた。同要綱では、供用後2年以内の初回点検を実施し、2年以内に1回以降を5年以内に行うと規定。近接目標によって26種類の損傷を調べている。



うち9割程度を鋼材の腐食が占め、コンクリート橋では、はく離・鉄筋露出が半数程度に上った。

国交省は、現在はA、B判定が半分程度だが、今後はC判定が増加すると予測。これを踏まえた対応策を検討していく方針だ。